

# ご近所のお医者さん



大野記念病院 中河宏治さん ー大阪市西区

## ユマニチュードへの道

皆さま、こんにちは。私は平成元(1989)年から大阪市西区の大野記念病院で外科医として勤めておりますが、今はメスを置いて、主に障害者病棟や地域包括ケア病棟で意識障害や四肢機能障

害、あるいは嚥下機能や認知機能、日常生活機能が低下しリハビリが

必要な方々の担当をしています。ほとんどの方が後期高齢者で、毎日の回診で患者さん方にお声がけをしても返事

## 人としての尊厳を守る

が返ってこなかったり、話しかかみ合わないなかつたりすることもしばしばです。

そのような状況で、認知症について勉強しようと、手に取った本が「ユマニチュードへの道」という本でした。

「ユマニチュード」とは、フランス語で「人間らしさ」を意味する造語で、寝たきりになったり、言葉を発しなくなったり、通常のコミュニケーションがとれなくなった人たちとの間で「見る」「話す」「触れる」「立つ」という特性に働きかけることで、人間らし

いありようを取り戻すことです。著者で「ユマニチュード」考案者の一人、イヴ・シネストさんは、たとえ

「この人に話しかけても返事はないかもしれない」と思っても、20秒ほどの距離まで近づいてアイコンタクトをとり「この人はわかってている」という前提で話をされるそうですが、「それは相手の尊厳を尊重するためでもあります。が、何より私の人間としての尊厳を守るためでもあります」と語っておられます。

ちなみに、「アイコンタクト」。水平

に目を合わせることで「平等」を、正面から見ることで「正直・信頼」を、顔を近づけることで「優しさ・親密さ」を見つめる時間を長くすることで「友情・愛情」を示すメッセージとなるそうです。

これからも元気な声と笑顔でのアイコンタクト、スキンシップを忘れず、目の前の患者さんお一人一人に寄り添っていかうと思っています。

